



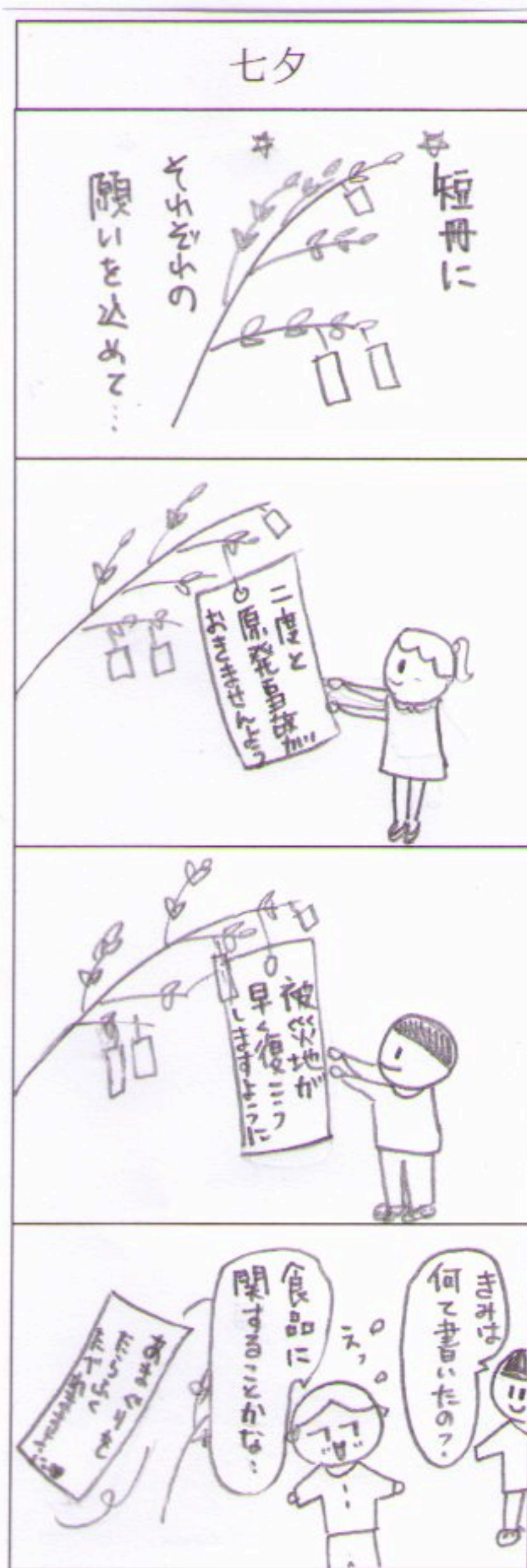
「汚染地域の現状、和歌山でできること」

先日、岩出市で医師をする傍ら、チェルノブイリと福島で子どもたちの医療相談を行っている山崎知行医師のお話を聞いてきました。

福島で相談を受けた方の3分の1に鼻血の症状があり、目の下のクマや下痢や咳といった症状が多く見られる、とのことでした。自分の子どもの不調が放射能のせいではないかと心配する気持ちを気安く口にできない雰囲気があることも、現地のお母さんたちを追いつめているようです。

また、関東から和歌山に避難してきた子ども29人の甲状腺検査を診療所で行なったところ、9人に甲状腺異常があったそうです。もちろんそれが直接ガンにつながるわけではなく、全て放射線の影響だとも断定できないが、事故前と比べると、やはり明らかに影響は出ているとのことでした。

一方、チェルノブイリの事故後、ベラルーシでは、汚染の強い地域に住む子どもたちを、汚染されていない土地で保養させる取り組みが継続的に行われているそうです。3週間の保養で、体内中のセシウムは2割減る、とのこと。子どもは放射線の影響を受けやすいが、排出されるのも早いので保養がとても有効、とおっしゃっていました。



和歌山は東北から遠いですが、きれいな土地、空気、食べ物があります。汚染地域で住まざるを得ない子どもたちを短期的にでも受け入れることで、体内の被ばくを減らし、被災地も和歌山も一緒に元気になっていけたら、と願っています。

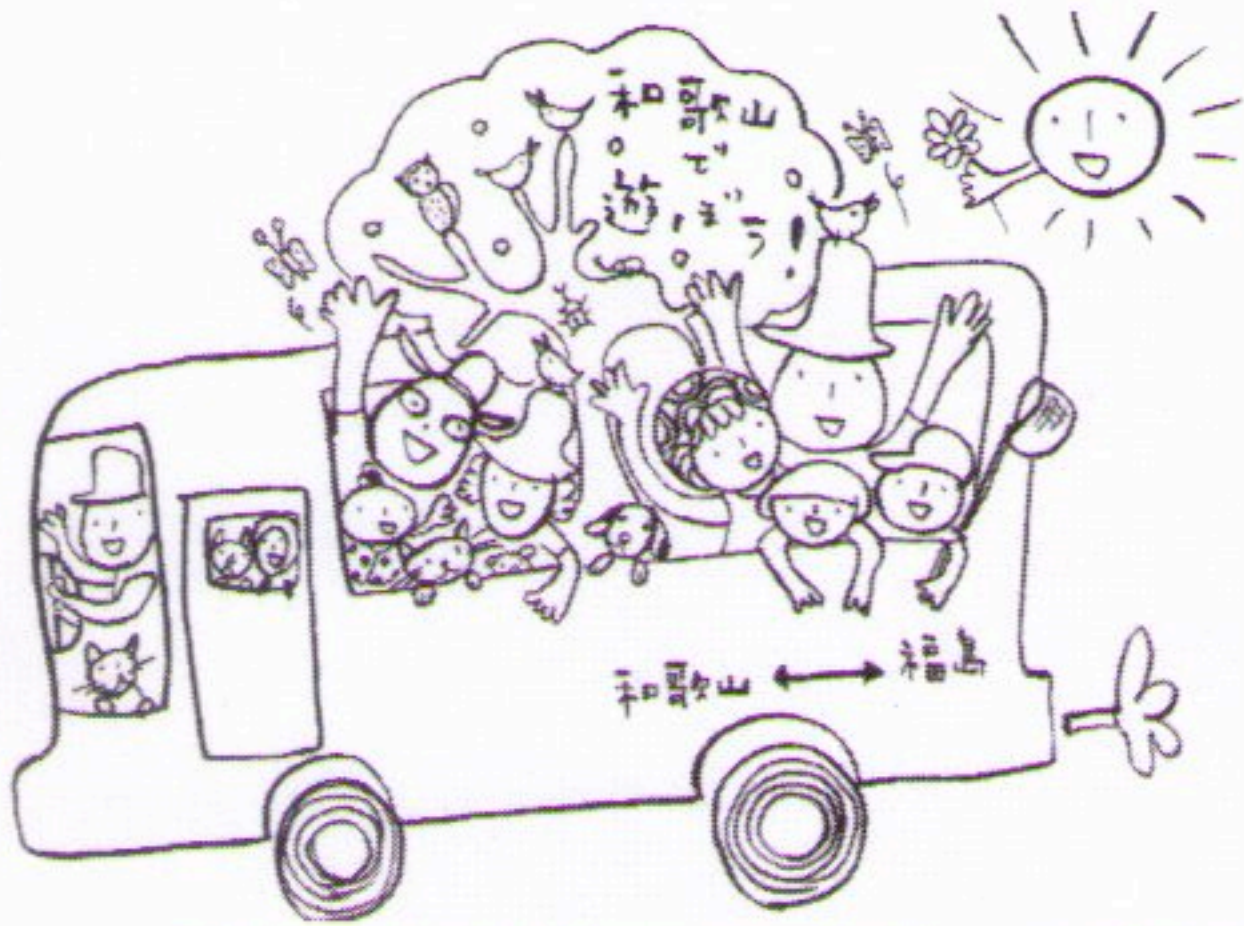
Q. 最近、ツイッター上で原発問題に言及し、話題になったアーティストは？

- A. 浜崎あゆみ
- B. 西野カナ
- C. 宇野田ヒカル

(前号の答え) ●●●
B: 警察署 ⊗

代替エネルギーに興味あり♪

「にんにこ ニコニコ夏休み」



この夏、福島の子どもたちを和歌山で受け入れ、音楽や木工、すいか割り、川遊び、BBQ、交流会などを行う楽しいイベントが企画されています。主催は、被災地からの母子避難の支援を行っている「にんにこ被災者支援ネットワーク・和歌山」さん(<http://www.ninnico.jp/>)。代表の花田さんは「参加した親子が和歌山を身近に感じ、福島に帰った後も万一の時には頼れる場所がある、という心の支えになれば」とおっしゃっています。 ボランティアさん募集中です!

日時:2012年8月16日~23日 参加者:福島県在住の小学生、中学生およびその保護者(25名程度)



宿泊場所:8/17~19 花園村・こむぎの郷 8/20~22 加太・少年自然の家

【お問い合わせ・連絡先】 hanada@ninnico.jp 080-2449-5300

オススメ Web☆『真実はどこに? WHO と IAEA 放射能汚染を巡って』

http://www.youtube.com/watch?v=oryOrsOy6LI&feature=player_embedded

ちょっとお固い題名。でも「You Tube で50分31秒の長さだが視聴し始めると一瞬も目を離せない」という知人の言葉の通り、見だしたら最後まで目が釘付けになります。2001年、キエフ国際会議の様相を映したとっても貴重な映像。内部被ばくの実態は過小評価され、真実が歪められる中、放射線防護の国際基準が決められていきます。一方で、被ばくの影響で苦しむ多くの子どもたちの姿。今後も日本で生活していく予定の方は、ぜひ見て下さい!

「紀伊半島にはなぜ原発がないのか？」

和歌山で原発がないことを当たり前のように暮らしている私たち。しかし火力から原子力にシフトしようとしていた昭和40年代、紀伊半島の5カ所でも原発立地計画がありました。そして20年以上もの間、生死をかけて闘った人々がいました。彼らの間で一貫して掲げられた言葉は「いのちの大切さ」。「いのちを守ろう。いのちの源である海、山、川を守ろう。それを子や孫に残そう。」

その軌跡をまとめた本が寿郎社より出版。この本を読むと、原発を阻止した人々の苦勞が伝わってくると同時に、和歌山に原発が一基もないことが奇跡のように思えます。

←『原発を拒み続けた和歌山の記録』汐見文隆・監修/「脱原発わかやま」編集委員会・編

